

ケトウペ(ハリガネムシ)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

不

思議な物語——人間六代ごとに一度現れるとい
う人喰いグマが人々をさらっていく。話を聞いた

私(少年)は、家族に内緒でクマ退治に出かけた。人間の
白骨が山になっているところに表れたのは、前と後ろに頭
があり、それぞれの額のところに鐮のような角が生えて
いる化け物グマだった。鐮のような体には全く矢も刺さ
らない。全力で逃げて木に登った

が、クマの角は丈夫な幹をみるみ
る削る。最後に放った最強の毒矢
が急所に刺さったものの、クマが
死ぬまで私が登っている木は持
ちそうにない。その時、思いがけ
ず、ハリガネムシの神に助けを求
める言葉が私の口について出た。

するとどこからともなく、白い
小袖を重ね着した弱々しい若い
男が現れ、手に持ったヨモギの槍
で襲いかかるクマを軽く一、三度
突くと、化け物グマは見るまに白

骨となつて崩れ落ちた。【要約】(萱野茂「炎の馬」)

この物語を初めて読んだ時、私はハリガネムシについ
て全く知りませんでした。「え?なに?どうしてそんな
力を持っているの?」。不思議に思いつつも、まだイン
ターネットで情報を集めることもできない時代でした。
そんなある日、二風谷の道路の真ん中になにやらう



イラスト/山丸ケニ

ごめくものが…。近寄ってみると、細い針金のようなも
のが丸まったのた打ち回っているのです。ハリガネムシ
だ!超気持ち悪い!でも、どうしてこんなものが強大な
力を持つ位の高いカムイなんだ?謎は深まるばかり。

月日が流れ、教え子の中に虫好きの女の子がいまし
た。ひょんなことから虫の話題になり、私が「どうして
ハリガネムシって力の強いカム
イなんだろ?」と言うと、彼女
は当然という表情で「そりゃ、ハ
リガネムシだからですよ」。

そこでようやく知ったので
す。ハリガネムシは幼虫の時は
カムキリやバッタの体内に寄生
し、大きくなって水中で暮らす
べき時がきたら宿主を操って入
水自殺させ、そこから出てくる
んですって。どうしてそんなこ
とができるのか、謎を解明しよ
うと多くの科学者が最先端技
術を駆使して研究しているようです。

バッタをフラフラと水辺に向かわせた挙げ句、最後
に姿を現す針金のような生き物。かつてのアイヌの人
たちが、不思議な力を持つカムイだと考えたのもわか
ります。でも正直、このカムイだけはなんとも好きに
なれません…。



次回のテーマは「アイヌ神謡集」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレップン」



イランカラプテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。